



問題 12-07 AD190257 □□□□

ソフトウェア開発工程を評価・改善するに当たって使用できる成熟度モデルはどれか。

- ア CMMI      イ MBNQA      ウ SLA      エ SLCP

問題 12-08 AD200135 □□□□

ソフトウェア開発において WBS (Work Breakdown Structure) を使用する目的として、適切なものはどれか。

- ア 開発の所要日数と費用がトレードオフの関係にある場合に、総費用の最適化を図る。  
イ 作業の順序関係を明確にして、重点管理すべきクリティカルパスを把握する。  
ウ 作業の日数を横棒（バー）で表して、作業の開始や終了時点、現時点の進捗を明確にする。  
エ 作業を階層に分解して、管理可能な大きさに細分化する。

問題 12-09 AD200136 □□□□

100 本のプログラムの単体テストの進捗管理を、作業の完了度合と作業ごとの工数比率に基づいて行いたい。表は単体テストの作業内容、工数比率及び現在までに作業が完了したプログラム本数を示している。現在の単体テストの進捗率は何%か。ここで、仕掛中の作業はないものとする。

作業の内容	工数比率 (%)	作業が完了したプログラム本数
テストデータ設計	20	100
テストデータ作成	20	100
テスト実施	20	70
テスト結果検証	40	50

- ア 20      イ 26      ウ 74      エ 80

問題 12-10 AD150257 AD200154 □□□□

リスク分析に関する記述のうち、適切なものはどれか

- ア 考えられるすべてのリスクに対処することは、時間と費用がかかりすぎるので、損失額と発生確率を予測し、リスクの大きさにしたがって優先順位を付けるべきである  
イ リスク分析によって評価されたリスクに対し、すべての対策が完了しないうちに、繰り返しリスク分析を実施することは避けるべきである  
ウ リスク分析は、将来の損失を防ぐことが目的であるから、過去の類似プロジェクトで蓄積されたデータを参照することは避けるべきである  
エ リスク分析は、リスクの発生による損失額を知ることが目的であり、その損失額に応じて対策の費用を決定すべきである

問題 12-11 AD200169 □□□□

ガントチャートを説明したものはどれか。

- ア 作業別に作業内容とその実施期間を棒状に図示したものであり、作業の予定や実績を示す場合に効果的である。  
イ 散点グラフにプロットされた要素の、比較的短期間での座標上の移動変化を示す場合に効果的である。

- ウ 複数の属性項目の値を線で結び、その値のバランスを評価する場合に効果的である。
- エ 棒グラフと折れ線グラフを組み合わせ、管理上の優先度を明示する場合に効果的である。

問題 12-12 AD200238 □□□□

現時点における設計書作成の作業実績工数及び進捗率は表のとおりである。これまでどおりの生産性で完了まで進められるとすると、すべての設計書を完成させるために今後必要な工数は何人日か。

	作業実績工数 (人日)	現在の進捗率 (%)
外部設計書	500	100
内部設計書	350	70
プログラム設計書	270	30

- ア 150                      イ 630                      ウ 780                      エ 1,120

問題 12-13 AD170173 AD140173 AD200272 □□□□

表は、あるイベントの準備作業 A～E と標準担当者人数及び所要日数の関係を示している。この表にしたがって準備時間を 35 日前に開始したが、ほかの作業との関係で、最初の 20 日間は、1 人しか担当させられない事態となった。イベントの開催に間に合うように残りの準備作業を行うためには、1 日あたり最低何人の担当者を確保する必要があるか。ここで、準備作業はマニュアル化されており、だれでも担当でき、並行して作業ができるものとする

準備作業	担当者人数	所要日数
A	2	5
B	2	5
C	3	10
D	2	5
E	5	10

- ア 4                      イ 5                      ウ 6                      エ 7

問題 12-14 AD150239 AD210134 □□□□

開発作業の順序や相互関係を表すのに用いられる図はどれか

- ア WBS (Work Breakdown Structure) の構造木
- イ アローダイアグラム
- ウ ガントチャート
- エ マイルストーンチャート

問題 12-15 AD210152 □□□□

データの破壊やシステムの可用性が損なわれることによって発生する費用のうち、リスクマネジメントにおいて直接的損失に分類されるものはどれか。

- ア システムが復旧するまでの代替処理にかかる費用
- イ データの破壊によって失った信用を回復するためにかかる費用
- ウ データベースの二重化とバックアップシステムの構築にかかる費用
- エ 不正アクセス防止策の実現可能性の検討にかかる費用

問題 12-16 IP210103

□□□□

システム開発に関する RFP (Request For Proposal) の提示元及び提示先として、適切なものはどれか。

- ア 情報システム部門から CIO に提示する。
- イ 情報システム部門からベンダに提示する。
- ウ 情報システム部門から利用部門に提示する。
- エ ベンダから CIO に提示する。

問題 12-17 IP210132

□□□□

システム開発プロジェクトにおけるリスク管理として、適切なものはどれか。

- ア リスク管理は、要件定義が完了した時点から実施する。
- イ リスク管理を行う範囲には、スキル不足など個人に依存するものは含まない。
- ウ リスクに対しては発生の予防と、発生による被害を最小限にする対策を行う。
- エ リスクの発生は予防措置を徹底することで防止でき、その場合は事後対策が不要になる。

問題 12-18 IP210133

□□□□

事業者の基幹となる業務で使用しているシステムにおける障害対策の考え方のうち、最も適切なものはどれか。

- ア 障害が発生した際に短時間で復旧できると判断した場合は、混乱を避けるために復旧してから関連部門へ連絡する手順にすべきである。
- イ 障害が発生した際には短時間で業務を再開させることが最も重要なので、システムを再起動して業務を再開させてから障害原因を究明する手順にすべきである。
- ウ 障害が発生した際の対処方法は状況によって異なるので、定められた対応手順よりも、現場での判断を最優先にすると規定すべきである。
- エ 障害の発生は避けられないものと考えて、一部の障害によってシステム全体が停止したり、業務が再開できなくなったりしないような対策を準備すべきである。

問題 12-19 IP210134

□□□□

プロジェクトを立ち上げるときに、最初に行うことはどれか。

- ア 進捗管理
- イ スケジュール立案
- ウ プロジェクト目標の明確化
- エ 予算立案

問題 12-20 IP210136

□□□□

プロジェクト管理においてマイルストーンに分類されるものはどれか。

- ア 結合テスト工程
- イ コーディング作業
- ウ 設計レビュー開始日
- エ 保守作業

問題 12-21 IP210141

□□□□

ファンクションポイント法に関する記述はどれか。

- ア ソフトウェアのもつ機能の数を基に、その規模を見積もる手法

- イ プログラムの行数やファイルサイズなどを基に、ソフトウェアの規模を見積もる手法
- ウ 見積担当者の経験から楽観値や悲観値を割り出してソフトウェアの規模を見積もる手法
- エ 予想されるプログラム行数にエンジニアの能力や要求の信頼性などの補正係数を掛け合わせて開発工数や期間、要員や生産性を見積もる手法

問題 12-22 IP210148 □□□□

あるシステムの設計工程における設計書作成の予定所要工数、及び現在の各設計書の進捗率は表のとおりである。予定通りの所要工数で完了まで進むものとして、すべての設計書の完了を 100%としたとき、現在の全体の進捗率 (%) は幾らか。

	予定所要工数 (時間)	現在の進捗率 (%)
外部設計書	500	100
内部設計書	700	50
プログラム設計書	900	30

- ア 40
- イ 47
- ウ 53
- エ 60

問題 12-23 IP210150 □□□□

時間を横軸にし、タスクを縦軸にとって所要期間に比例した長さで表した工程管理図はどれか。

- ア E-R 図
- イ アローダイアグラム
- ウ ガントチャート
- エ 状態遷移図

問題 12-24 IP210230 □□□□

ある作業を 6 人のグループで開始し、3 ヶ月経過した時点で全体の 50%が完了していた。残り 2 ヶ月で完了させるためには何名の増員が必要か。ここで、途中から増員するメンバの作業効率は最初から作業している要員の 70%とし、最初の 6 人のグループの作業効率は残り 2 ヶ月も変わらないものとする。

- ア 1
- イ 3
- ウ 4
- エ 5

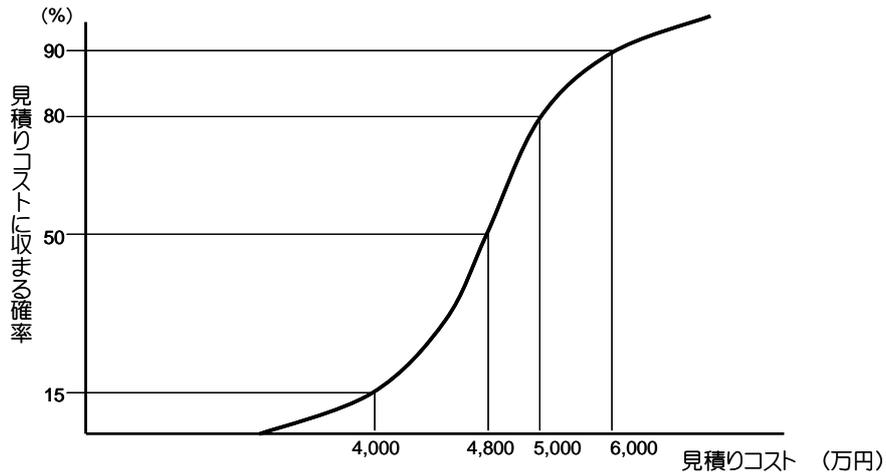
問題 12-25 IP210234 □□□□

プロジェクトを管理する上で、プロジェクトマネージャが考慮すべき制約条件の組合せとして、適切なものはどれか。

- ア 対象範囲、納期、予算
- イ 対象範囲、納期、リスク
- ウ 対象範囲、予算、リスク
- エ 納期、予算、リスク

問題 12-26 IP210236 □□□□

図は、リスクシミュレーションを基に、あるプロジェクトの見積りコストに対して最終的にその額に収まる確率を示したものである。現在、プロジェクトの予算として 4,000 万円を用意している。実際のコストが見積りコストを上回ってしまう確率を 20%まで引き下げるためには、予備として、あとおよそ何万円用意することが妥当か。



- ア 1,000      イ 2,000      ウ 4,800      エ 9,000

問題 12-27 IP210239

□□□□

プログラムの開発作業で担当者 A~D の 4 人の工程ごとの生産性が表のとおりするとき、4 人同時に見積りステップ数が 12k ステップのプログラム開発を開始した場合に、最初に開発を完了するのはだれか。

単位 k ステップ/月

担当者	設計	プログラミング	テスト
A	3	3	6
B	4	4	4
C	6	4	2
D	3	4	5

- ア A      イ B      ウ C      エ D

問題 12-28 IP210241

□□□□

プロジェクト立上げ時に、プロジェクトの活動を総合的に管理及び調整するために、プロジェクト憲章を定める。プロジェクト憲章に盛り込むべき内容として、適切なものはどれか。

- ア スケジュール      イ 体制  
ウ 品質マネジメント計画      エ プロジェクトの目的

問題 12-29 IP210243

□□□□

新しい業務ソフトウェアの開発が完了し、実環境へ導入することになった。当該ソフトウェアの導入時に必要な作業として、適切なものはどれか。

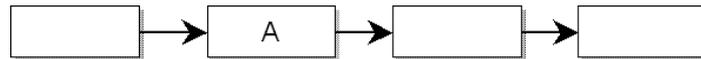
- ア 業務実施状況監視やバッチ処理投入などに必要な運用コストの見積り  
イ ディスク容量など、必要なハードウェア資源の確保  
ウ 当該ソフトウェアで実現する機能の決定  
エ 当該ソフトウェアの開発工数の見積り

問題 12-30 IP210244

□□□□

ソフトウェア開発における仕様変更の手順の要素を“変更内容の評価”、“変更の指示”、“変更の反映”、“変更要求の受

付”としたとき、手順のAに該当するものはどれか。



- ア 変更内容の評価
- イ 変更の指示
- ウ 変更の反映
- エ 変更要求の受付

問題 12-31 IP210245 □□□□

情報システムの安定稼働を妨げる様々な脅威への事前対策に関する説明のうち、適切なものはどれか。

- ア 外部からの不正侵入が完全に阻止できれば、不正アクセスへの事前対策としては問題ない。
- イ 自然災害に対しては予測が困難なので、人的災害に絞って事前対策を講じる。
- ウ すべてのデータをバックアップしておけば、ほかの事前対策は不要となる。
- エ 予想損失額や対策コストとのトレードオフを考慮して、必要な事前対策を講じる。

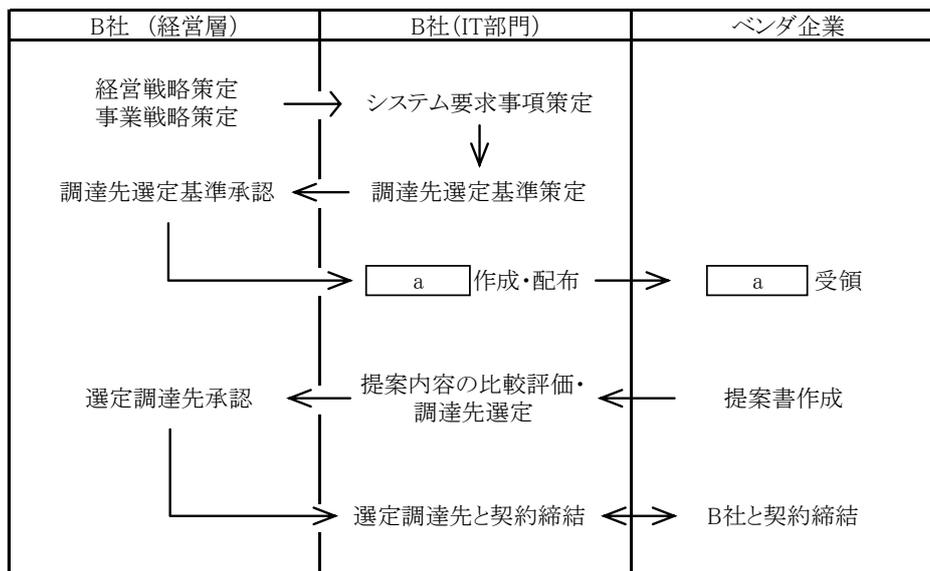
問題 12-32 IP210251 □□□□

プロジェクトのスケジュールを短縮する方法について説明したものはどれか。

- ア ウォータフォール型のシステム開発をスパイラル型に変更する。
- イ クリティカルパスの期間を厳守するために、クリティカルパスにない作業の順序を変更する。
- ウ 順番に行うように計画した作業を並行して行うように変更する。
- エ プロジェクトの全期間で、メンバの作業負荷をできるだけ一定になるように調整する。

問題 12-33 IP220104 □□□□

B社は図のような流れで情報システムを調達した。aに当てはまるものはどれか。



- ア NDA
- イ RFI
- ウ RFP
- エ SLA

問題 12-34 IP220133 □□□□

ある開発プロジェクトでソフトウェア結合テストを終了し、システムの機能を確認するシステムテストを行っている。

このシステムテストで、あるプログラムに不良が多発しているとの報告があった。プロジェクトマネージャが最初に行うべきこととして、最も適切なものはどれか。

- ア システムテストを中断し、ソフトウェア結合テストからやり直す。
- イ テストの進捗が遅れが出ないようにするために、問題のあるプログラムのテスト要員を増やす。
- ウ 問題のあるプログラムの品質を再評価し、システムテストへの影響を把握する。
- エ 問題のあるプログラムをテスト対象から外し、プログラムを再作成する。

問題 12-35 IP220136

□□□□

合意済みのシステム要件に対し、機能追加となる変更依頼を顧客から受けた。このときの受託側の対応として、適切なものはどれか。

- ア 運用設計担当者が、変更を行うかどうかを判断する。
- イ 決定権を持つ会議や責任者が、変更を行うかどうかを判断する。
- ウ 当該顧客の営業担当者が、変更を行うかどうかを判断する。
- エ 変更に係るソフトウェアの開発担当者が主体となって、変更を行うかどうかを判断する。

問題 12-36 IP220144

□□□□

プロジェクトにおける開発予算に関する記述のうち、最も適切なものはどれか。

- ア 開発計画は総開発予算に基づき作成するものなので、個々の作業ごとの見積もりを積算して計画してはならない。
- イ 開発予算と実績の差異を監視し、必要に応じて計画変更を行う。
- ウ 開発予算は直接資材調達に対するもので、プロジェクトに参加する社員の人件費は含めない。
- エ 類似プロジェクトの有無に関わらず、ファンクションポイント法を用いて詳細な見積もりを行う。

問題 12-37 IP220146

□□□□

プロジェクトマネージャが行うプロジェクト関係者とのコミュニケーションに関する記述のうち、最も適切なものはどれか。

- ア どのような報告をいつ、だれに対してどのような方法で行うか、プロジェクトの開始時点で決めておく。
- イ 発注者にプロジェクトの進捗報告を行うときは、開発担当者が作成した進捗報告をそのまま使用する。
- ウ プロジェクトチームのメンバとのコミュニケーションは、連絡の迅速性を重視して口頭で行う。
- エ プロジェクトの規模にかかわらず、定期的にプロジェクト内外の関係者全員を集めた進捗状況確認の会議を開催する。

問題 12-38 IP220189-92

□□□□

在庫管理システムの開発計画に関する次の記述を読んで、問に答えよ。

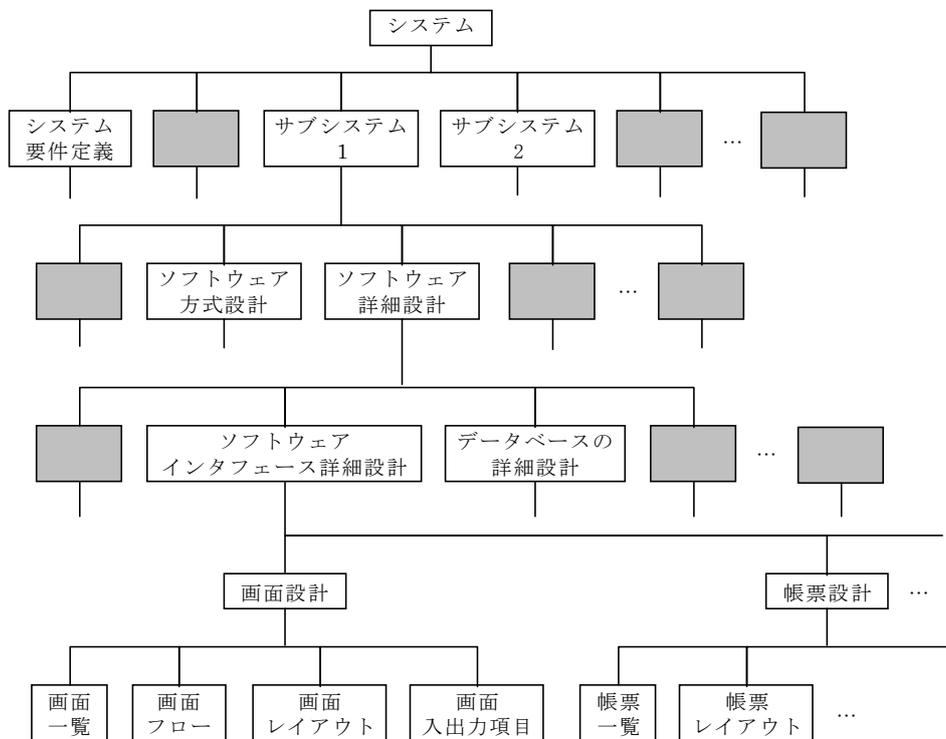
Sさんは、在庫管理システム（以下、システムという）を構築するプロジェクトに参加することになった。

システム開発計画は、プロジェクトにおける成果物及び完了基準を明確にした上で、作業分割、作業内容定義、作業順序設定、作業期間見積もり、スケジュール作成の五つのステップに分けて順に実施される。

- (1) 作業分割では、WBS (Work Breakdown Structure) を用いて、成果物の作成作業を細分化する。WBS は、全体の作業を分割し、その構成要素を階層構造として整理したものである。
- (2) 作業内容定義では、分割した各作業の成果物と工数を定義する。
- (3) 作業順序設定では、作業間の前後関係を決定する。

- (4) 作業期間見積りでは、作業の工数を要員数で割ることで、作業期間を求める。
- (5) スケジュール作成では、各作業期間を元に開始日と終了日を決定する。

Sさんは、先輩の指導の下で、図に示すWBSによるシステムの作業分割を実施した。



注 ネット掛の部分は、表示していない。

図 WBSによるシステムの作業分割

問 Sさんは、作業分割の図において、システム要件定義などのシステム開発作業全体にかかわるものをサブシステム1、2、…と同じ階層に記載するようにと、先輩から指示を受けた。図のシステム要件定義と同じ階層に記載すべき作業として、適切なものはどれか。

- ア システム監査
- イ システム結合
- ウ ソフトウェア結合
- エ ソフトウェアコード作成及びテスト

問 作業分割の図では、最初の段階でシステム開発作業全体にかかわるものとするサブシステムに着目して分割している。Sさんが図のサブシステムごとに、次の段階で行った作業分割の説明として、適切なものはどれか。

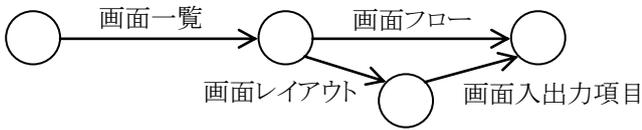
- ア 開発の工程別に作業分割した。
- イ システム要件定義の項目ごとに作業分割した。
- ウ ソフトウェアごとに作業分割した。
- エ モジュールごとに作業分割した。

問 作業内容定義では、作業分割で作成したWBSを基に、担当、工数を加えた表を作成した。次の表はその一部を示したものである。画面設計での作業5の作業間には次の図に示す順序関係があるとき、画面設計のクリティカルパスの作業日

数はどれか。図では、作業の流れを矢印で、作業名を矢印の上又は下に示している。

作業 1	作業 2	作業 3	作業 4	作業 5	成果物	担当	工数
サブシステム 1	ソフトウェア 詳細設計	ソフトウェア インターフェース 詳細設計	画面設計	画面一覧	画面一覧表	田中	4
				画面フロー	画面フロー図	田中	6
				画面レイアウト	画面レイアウト図	鈴木	3
				画面入出力項目	画面入出力項目定義書	鈴木	2
			帳票設計	帳票一覧	帳票一覧表	佐藤	5
				帳票レイアウト	帳票レイアウト図	佐藤 田中	10

注 同じ名字の担当はいない。



ア 5                      イ 9                      ウ 10                      エ 15

問 Sさんは、作業期間見積りを行い、作業期間を基に作業の開始日と終了日を決定し、スケジュールの作成を行った。次の表はスケジュールの一部を示したものである。スケジュールを見た先輩から誤りを指摘された。Sさんが受けた指摘として、適切なものはどれか。次の図は6月のカレンダーであり、土日は作業を行わないものとする。

作業 1	作業 2	作業 3	作業 4	作業 5	成果物	担当	工数	作業	
								開始日	終了日
サブシステム 1	ソフトウェア 詳細設計	ソフトウェア インターフェース 詳細設計	画面設計	画面一覧	画面一覧表	田中	4	6月3日	
				画面フロー	画面フロー図	田中	6	6月9日	
				画面レイアウト	画面レイアウト図	鈴木	3	6月9日	
				画面入出力項目	画面入出力項目定義書	鈴木	2	6月12日	
			帳票設計	帳票一覧	帳票一覧表	佐藤	5	6月6日	
				帳票レイアウト	帳票レイアウト図	佐藤 田中	10	6月13日	6月19日

注 同じ名字の担当はいない。網掛けの部分は、表示していない。

6月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

ア 帳票レイアウトの工数は10なので、終了日は6月26日である。

- イ 帳票レイアウトの作業は、田中さんの前作業が重なるので終了日を6月19日に設定できない。
- ウ 帳票レイアウトの作業は、担当が2名割り当てられているので、終了日を6月18日に設定することができる。
- エ 帳票レイアウトの作業は、他の作業と比較して工数が多いので、作業期間を長めに見積もる必要がある。

問題 12-39 IP220204

□□□□

複数のシステム開発ベンダから RFP に基づいた提案を受けた。開発ベンダの選定方法として、最も適切なものはどれか。

- ア あらかじめ設定しておいた評価基準を用いて、提案内容を比較して選定する。
- イ 開発費用を抑えるために、提案内容によらず開発費用が最も安いベンダを選定する。
- ウ それぞれのベンダの強みと弱みを、SWOT 分析を用いて評価して選定する。
- エ ファンクションポイント法を用いて、提案システムの機能の充実度を測定して選定する。

問題 12-40 IP220230

□□□□

災害による事業中断へのリスク対策として、データセンタを関東と関西の2か所に設置することとした。このリスク対策は、リスクマネジメントにおける四つのリスク対応のうち、どれに該当するか。

- ア 移転           イ 回避           ウ 低減           エ 保有

問題 12-41 IP220238

□□□□

ソフトウェアの品質評価の基準である品質特性には、機能性、信頼性、使用性、効率性などがある。機能性に関するテストとして、適切なものはどれか。

- ア 応答時間や処理時間など求められる性能が備わっていることを検証する。
- イ 使用目的や要件に従って正しく動作することを検証する。
- ウ 必要な時に使用でき、故障時には速やかに回復できることを検証する。
- エ 利用者にとって理解、習得、操作しやすいことを検証する。

問題 12-42 IP220242

□□□□

利用部門からの要望を受けて、開発部門でシステム開発のプロジェクトを立ち上げた。プロジェクトマネージャの役割として、最も適切なものはどれか。

- ア システムの要件を提示する。
- イ プロジェクトの進捗を把握し、問題が起こらないように適切な処置を施す。
- ウ プロジェクトの提案書を作成する。
- エ プロジェクトを実施するための資金を調達する。

問題 12-43 IP220244

□□□□

プロジェクトメンバーの間で、プロジェクトに関する決定事項を明確に伝えるために行う活動として、最も適切なものはどれか。

- ア 議事録作成のルールを決める。
- イ 作業タスクの洗い出しを十分に行う。
- ウ 進捗を定量的に管理する。
- エ 成果物のレビューを実施する。



- ア ① → ② → ④ → ⑤ → ⑧
- イ ① → ② → ④ → ⑥ → ⑧
- ウ ① → ③ → ④ → ⑥ → ⑧
- エ ① → ③ → ④ → ⑦ → ⑧

[マネジメント]

問 Fさんは表の作業全体が最も早く終了する時間を求めた。その時間は何時間か。

- ア 10                      イ 10.5                      ウ 11                      エ 11.5

[マネジメント]

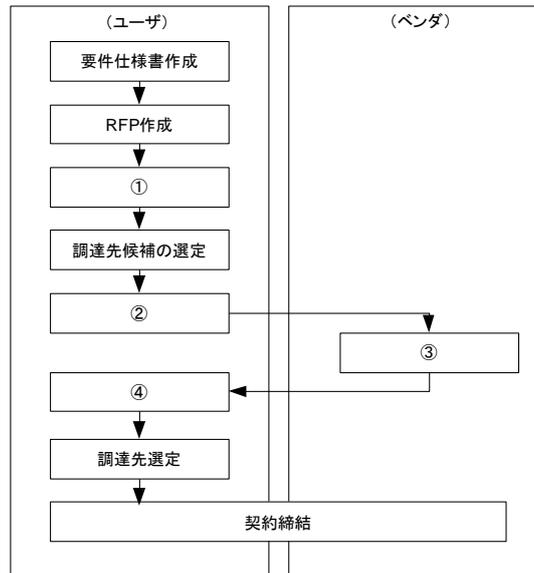
問 Fさんが全体の作業時間を求めたところ、当初想定していた時間より長くなったので、時間を短縮することを検討するように先輩から指示された。表に示される全体の作業時間を最も短縮できる方策はどれか。

なお、並行して実施可能な作業はすべて並行して実施するものとする。

- ア 作業②を1.5時間短縮する。                      イ 作業④を1.5時間短縮する。
- ウ 作業⑤を1.5時間短縮する。                      エ 作業⑥を2時間短縮する。

問題 12-47 IP230104 □□□□

図の手順でソフトウェアを調達するとき、①に該当する項目として、最も適切なものはどれか。ここで、ア～エは、①～④のいずれかに該当するものとする。



- ア RFP 説明                      イ 調達先選定基準作成
- ウ 提案書作成                      エ 提案書評価

問題 12-48 IP230133 □□□□

システム開発プロジェクトにおけるクリティカルパスに関する記述のうち、適切なものはどれか。

- ア 開発の遅延を回復するために要員を追加する場合、クリティカルパス上の作業に影響を与えないように、クリティカルパス上にない作業に対して優先的に追加する。
- イ クリティカルパス上の作業が3日前倒しで完了すると、プロジェクトの完了も必ず3日前倒しとなる。
- ウ クリティカルパス上の作業が遅延すると、プロジェクトの完了も遅延する。

エ プロジェクトにおいてクリティカルパスは一つだけ存在する。

問題 12-49 IP230141

□□□□

生産性が同じメンバ5名で20日掛かる作業がある。作業開始直前に3名がインフルエンザにかかったため新たなメンバと交代させることにした。新メンバの生産性は当初予定していたメンバの60%の生産性であるとき、20日以下で作業を完了する為には、少なくとも何名の新メンバが必要か。

ア 4                      イ 5                      ウ 7                      エ 9

問題 12-50 IP230145

□□□□

プロジェクトマネジメントにおいてWBSを作成する目的として、最も適切なものはどれか。

- ア 進捗管理の作業効率を向上する。
- イ 成果物とそれを作成するための作業を明確にする。
- ウ 品質検証のための基準を明確にする。
- エ プロジェクトの目的を周知する。

問題 12-51 IP230147

□□□□

SLAの説明として、適切なものはどれか。

- ア ITサービスの利用者からの問合せに対応する窓口
- イ ITサービスマネジメントのベストプラクティスを文書化したもの
- ウ サービス内容に関して、サービスの提供者と顧客間で合意した事項
- エ サービスやIT資産の構成目録を管理するために作成するデータベース

問題 12-52 IP230150

□□□□

システム開発の結合テスト段階において、開発済の機能に追加や修正が必要となり、データベースの構成も変更することになった。プロジェクトマネージャの対応に関する記述a～dのうち、適切なものをすべて挙げたものはどれか。

- a WBSを改定しプロジェクトスケジュールを見直す。
- b 追加または変更に必要なコストを見積もる。
- c データベースの構成変更に伴うリスクを洗い出す。
- d 当初予定していた結合テストを完了させてから変更を行う。

ア a, b, c                      イ a, b, d                      ウ b, d                      エ c, d

問題 12-53 IP230151

□□□□

システム開発プロジェクトにおいて、システム要件定義からソフトウェアの導入・受入れ支援までを開発ベンダが受注した。システム開発に関する文書a～dのうち、開発ベンダが作成する文書として、適切なものをすべて挙げたものはどれか。

- a システムテスト結果報告書
- b 情報提供依頼書
- c ソフトウェア導入計画書
- d 提案依頼書

ア a, b                      イ a, c                      ウ b, d                      エ c, d



エ 商品の製造に使用する機械の情報

問 データベースソフトのライセンスは、稼働しているサーバの CPU の数で決まり、販売管理ソフトウェアパッケージのライセンスは、管理される商品数と顧客数の最大数の組合せで決まる。W 社が購入すべきライセンスの組合せとして、適切なものはどれか。

	データベースソフト	販売管理ソフトウェアパッケージ	
	CPU の数	商品数 (最大)	顧客数 (最大)
ア	1	2,000	500
イ	2	2,000	500
ウ	1	5,000	2,000
エ	2	5,000	2,000

問 販売管理システムの開発で顧客情報を X 社に直接利用させるために、W 社が行っておくべきことはどれか。

- ア X 社が顧客情報を早く扱えるように、開発の一括請負契約を X 社と早急に結ぶ。
- イ 開発がスムーズに行えるように、顧客情報の詳細データを開発の正式契約前に X 社へ渡す。
- ウ 顧客情報が X 社によって外部に漏れたり、不適切に取り扱われたりしないように、X 社と守秘義務契約を結ぶ。
- エ 顧客数に対応した販売管理ソフトウェアパッケージのライセンス契約を Y 社と結ぶ。

問 W 社は X 社の納品したシステムを検収すると同時に、X 社と保守契約を結んだ。この翌月に販売管理システムで障害が発生した場合、W 社として行うべきことはどれか。

- ア W 社でトラブルの原因を調査し、その原因が X 社の開発したシステムのバグであっても W 社で修正を行う。
- イ W 社でトラブルの原因を調査し、その原因が X 社の開発したシステムのバグであれば、X 社へ有償で修正を依頼する。
- ウ X 社にトラブルの原因の調査を依頼し、その原因が X 社の開発したシステムのバグであれば、無償で修正してもらおう。
- エ X 社にトラブルの原因の調査を依頼し、その原因が X 社の開発したシステムのバグであれば、有償で修正してもらおう。

問題 12-57 IP230225 □□□□

ある業務システムの新規開発を計画している企業が、SI ベンダに出す RFP の目的として、最も適切なものはどれか。

- ア 開発する業務システムの実現方法とその可能性を知るために、ベンダから必要な技術情報を得たい。
- イ 業務システムの開発を依頼する候補を絞り込むために、得られる情報からベンダの能力を見たい。
- ウ 業務システムの開発を依頼するために、ベンダの示す提案内容から最適な依頼先を選定したい。
- エ 業務システムの開発を依頼するベンダと機密保持契約を結ぶために、ベンダからの了解を取り付けたい。

問題 12-58 IP230234 □□□□

ソフトウェアの品質特性は、機能性、使用性、信頼性、移植性などに分けられる。使用性に分類されるものはどれか。

- ア 仕様書どおりの実行結果や操作が提供されている。
- イ ソフトウェアの平均故障間隔が長い。

- ウ 他の OS 環境でも稼働できる。
- エ 利用者の習熟時間が短い。

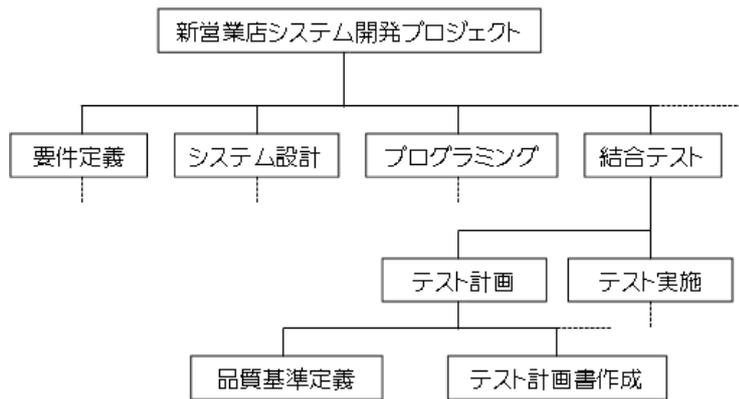
問題 12-59 IP230238 □□□□

財務システムの機能追加プロジェクトのプロジェクトマネージャに任命された A さんは、プロジェクトのリスクチェックリストを作成するために、過去のプロジェクトで使用したリスクチェックリストを手に入れた。リスクチェックリストに関する記述のうち、適切なものはどれか。

- ア 過去のチェックリストは過去の情報や知識を基に作成されたものなので、新たに作成するリスクチェックリストの参考にする。
- イ 過去のリスクチェックリストは過去の情報や知識を基に作成されたものなので、これに載っていないリスクの検討は不要と判断する。
- ウ プロジェクトごとにばらつきが出ないように、過去のリスクチェックリストをそのまま使用する。
- エ プロジェクトごとにリスクは変化するので、過去のリスクチェックリストに載っていないリスクだけで新たにリスクチェックリストを作成する。

問題 12-60 IP230242 □□□□

新営業店システム開発プロジェクトの WBS を、図のように階層的に表現する手法はどれか。



- ア PERT (Program Evaluation and Review Technique)
- イ WBS (Work Breakdown Structure)
- ウ 構造化プログラミング
- エ ファンクションポイント法

問題 12-61 IP230251 □□□□

プロジェクトのコスト管理、進捗管理、品質管理に関する記述 a~d のうち、進捗管理に関する記述だけを全て挙げたものはどれか。

- a 成果物に不具合があったとき、その修正内容が仕様どおりであることを確認する。
- b 成果物の手直しなどの問題対策が予算超過につながらないことを確認する。
- c 総合テストの開始までに発注先から成果物が納品されることを確認する。
- d マイルストーンで予定どおりに成果物が作成されたことを確認する。

- ア a, b
- イ b, c
- ウ b, d
- エ c, d

インターネットを使った商品販売システムの開発に関する次の記述を読んで、問に答えよ。

M社は装飾品販売会社である。M社では新たな事業として、一般消費者に対するインターネットを用いたアクセサリ販売を検討することになった。

販売企画課の入社2年目になるAさんは、このアクセサリ販売を検討するメンバに選ばれ、インターネットで商品販売するシステム（以下、通販システムという）の構築を担当することになった。Aさんは通販システムの構築に当たり、実施すべきことを気づいた順にメモに書き出した。

なお、M社では、通販システムの構築はX社に委託することを決めている。

[Aさんが書き出したメモ]

- (1)アクセサリの販売を行っている従業員や、アクセサリを購入した顧客から、通販システムに対する要求や要望をヒアリングして、文書にまとめる。
- (2)委託先のX社に通販システムの要件を伝える。その後、X社が構築した通販システム、X社が作成したプログラム設計書、及びX社が実施したテスト報告書を受領する。
- (3)通販システムに対する要求や要望を基に、通販システムで実装すべきシステム要件を文書にまとめる。
- (4)通販システムに対する要件を満たしているかの判定のために、X社から受領した通販システムのテストをM社が実施する。結果をM社のテスト報告書にまとめる。
- (5)M社がテストした結果を基に、通販システムの妥当性の確認を行い、稼働判定を実施する。通販システムの稼働が可能と判断されれば、通販システムでの販売を開始する。

問 [Aさんが書き出したメモ]の(1)～(5)を実施する順番に並べたとき、aに入れる適切なものはどれか。



注記 網掛けの部分は、表示していない。 →は順序を表している。

- ア (1)                      イ (2)                      ウ (3)                      エ (4)

問 Aさんは、[Aさんが書き出したメモ]の(3)の作業で、今回のシステム要件を文書にまとめると、どの程度のページ数になるか先輩社員に相談したところ、経験上300ページ程度になるとの回答を得た。この300ページの文書を、次の条件において10日間で作成するためには、最低何人の作業員が必要か。

[条件]

- (1)作業員は1日当たり8ページを記述する。全ての作業員の生産性は同じである。
- (2)作業員が複数で担当する場合は、2人ずつの打合せが毎日1回発生する。
- (3)打合せは作業員2人ずつ総当たりで行い、2人1組当たりの打合せ時間は、0.5ページ分を記述する時間に相当する。例えば、作業員が3人の場合、1人が他の2人に対して、それぞれ打合せが必要になるので、合わせて1ページ分の記述に相当する時間が必要となる。したがって、この場合では作業員1人が実際に1日に記述できるページ数は7となる。

- ア 4                      イ 5                      ウ 6                      エ 7

問 Aさんは、[Aさんが書き出したメモ]の(4)の作業を、テスト1～4とテスト報告書作成という小作業項目に分解し、それぞれの日数と依存関係を表1にまとめた。この作業のクリティカルパスに掛かる日数は何日か。

表1 小作業項目に掛かる日数と小作業項目の依存関係

小作業項目	日数	先行する小作業項目
テスト1	3	なし
テスト2	4	テスト1
テスト3	2	なし
テスト4	5	テスト1、テスト3
テスト報告書作成	2	テスト2、テスト4

ア 7                      イ 8                      ウ 9                      エ 10

問 M社では、通販システムを稼働させる前に、[Aさんが書き出したメモ]の(5)で、稼働の可否を判断する稼働判定会議を実施することになっている。そこで、Aさんはこの会議に必要な文書を用意することにした。次の記述中のb、cに入れる適切な文書記号の組合せはどれか。

なお、[Aさんが書き出したメモ]の(1)～(4)では、既に表2に示す文書が作成されている。

通販システムの稼働判定は、の結果を基に実施する。また、に記載された内容の過不足の確認は、を参照し、判定する。

表2 作成された文書

Aさんが書き出したメモ	作成された文書	文書記号
(1)	従業員や顧客からヒアリングした要求や要望をまとめた文書	①
(2)	X社のプログラム設計書	②
	X社のテスト報告書	③
(3)	実装すべきシステム要件をまとめた文書	④
(4)	M社のテスト報告書	⑤

	b	c
ア	③	①
イ	③	④
ウ	⑤	②
エ	⑤	④